

主体的・対話的で深い学びの授業構想（科目「ビジネス情報」）

1 対象生徒

総合学科3年次のビジネスプラン選択者の生徒を対象とする。2年次からプラン別授業となり科目「簿記」「原価計算」「情報処理」を学習した。商業科の基礎的科目である「ビジネス基礎」を学習していなかったり、商業科の科目数が少なかったりするため、ビジネスの考え方があまり定着していないように感じる。また、情報に関しても特段関心をもっているわけではない。総合学科の中でグループワークを頻繁に取り組んでいるため、テーマを与えると積極的に論議し始める傾向がある。

2 単 元

第5章 ソフトウェアを活用したシステム開発 第3節 表計算ソフトウェアによる開発 3 システムの作成

3 単元目標

自分たちでシステムを作成する場合、どのようなソフトウェアを用いて開発したらよいかを考えさせる。

4 本時の目標

演習を通してソフトウェアの特徴を捉える能力を育成する。グループワークを通して対話的で深い学びにより、利用者の立場に加えて、開発者の立場で考えさせる。（全3時間）

5 授業展開構想

課題の提示
<p>豊東商店は、小売店を始めることにし、その会計処理システムを受注した。ふだんの取引の記録から、決算処理までをユーザ側の利用のしやすさ、開発側の開発のしやすさ等から考え、どのようなものをどのようなソフトウェアでどのように開発をするのか、グループで考え、プレゼンテーション資料をまとめて、自分の班が採用されるよう、プレゼンテーションを行いなさい。</p>

思考のための資料と想定される生徒の活動			
【資料1】	【資料2】	【資料3】	【資料4】
<ul style="list-style-type: none"> ExcelとAccessの比較 今まで学習した内容を振り返って話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 外部設計 実際に最初からつくった経験がないので、活発意見交換を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 内部・プログラム設計 資料2から導き出された作成方法について考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> プレゼン資料作成 自分たちの考えが他の班に伝わるかどうかを考えながら作成する。

対話と思考（対話を通じた課題解決のプロセス）
<ul style="list-style-type: none"> 4人1班（1班のみ5人）とする。班員はランダムで決定し、班長を決める。（5分） 各班で話し合いながら、班長を中心に意見をまとめ資料を作成する。（45分） 資料が完成したら、プレゼンテーションソフトにまとめる。（50分） プレゼンテーションを行い、発表する。（50分） <p style="text-align: right;">【50分×3時間で実施】</p>

学習の成果
<ul style="list-style-type: none"> ソフトウェアの特徴を理解することができた。 開発する側と利用する側の視点から考えることができた。

新学習指導要領における育成を目指す資質・能力を評価するための視点	
①知識及び技術	<ul style="list-style-type: none"> ExcelとAccessの活用方法について理解している。
②思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> 課題解決に向けて必要とされるデータを整理し、判断できている。 聴衆者が理解できるよう、プレゼンテーションができている。 資料プリントが分かりやすくまとめられている。
③学びに向かう力、人間性等	<ul style="list-style-type: none"> 意見交換に積極的にに関わり、課題解決に向けて資料を作成できる。 班長は班をまとめ、班員は積極的に班長を盛り立てることができる。 自ら考え、発言している。